

I 競技スポーツの振興

現状と課題

- ・全国大会の入賞者数が伸び悩み
- ・国スポは目標の20位台を達成できず、都道府県駅伝の順位も低迷
- ・指導者の高齢化が進む



これまで展開してきた競技力向上の施策に加え、

- 若手指導者の育成
 - 有望なジュニアの発掘・育成
- が急務となっている。

<関連データ>

区 分	H30	R1	R4	R5	R6
全国大会入賞数	133	125	113	127	122

区 分	R1	R4	R5	R6	R7
国スポ順位	35位	28位	28位	31位	32位

区 分	R1	R3	R4	R5	R6
都道府県駅伝(男子)	41位	中止	46位	47位	47位
〃 (女子)	24位	32位	43位	43位	45位

R7年度取組

○「いしかわスポーツ医・科学情報センター」による支援

- ・ジュニア選手やトップアスリート等にケガ予防のためのコンディショニング指導
- ・メディカル、メンタル、栄養、情報戦略など総合サポート

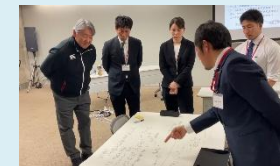


○競技力向上支援 (各競技団体および中高生)

県内外の合宿や海外遠征支援、指導者の招へい等

○スポーツコーチの養成

全国トップレベルの指導者を養成するため、最新のコーチング理論を学ぶ講座開催等を支援



○次世代アスリートの育成

本県の強みである競技18競技62名を指定し、強化合宿費を支援

○日本体育大学との連携

合同練習、教授による指導者研修会等

○ジュニアアスリート育成プログラム (試行)

- ・体力測定会の優良者30名程度を選抜
- ・競技体験やフィジカルトレーニング等を学び、新たな競技の発見と継続的な育成を図る



今後の方針

国スポの入賞者数は昨年より増加するなど、一部で結果も出つつある。引き続き、医・科学サポートや競技力向上支援を継続するほか、ジュニア育成を深化させ、世界の舞台で活躍できるアスリートの輩出を目指す。

現状と課題

- ・トップスポーツチームの観客動員数は増加（ファン層が順調に拡大）
- ・スポーツ施設の利用者数は、地震の影響もありコロナ前に回復していない
- ・若年層、働き盛り世代、女性のスポーツ実施率が低い傾向



多様な方々に、多様なスポーツに触れ、親しんでもらう施策が必要

<関連データ>

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
ホーム観客動員数	150,952	41,986	77,771	111,198	136,519	205,644

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
スポセン利用者数	465,541	267,844	265,867	381,042	346,413	223,054

R7年度取組

新 スポーツ医・科学の知見を活かした被災者の健康維持

国のハイパフォーマンススポーツセンターや日本体育大学等と連携した被災者の健康増進プログラム



県民スペシャル応援デー

県内8つのトップスポーツチームの年間1試合を観戦無料 招待し、交流イベント等を開催



いしかわスポーツマイレージ

- ・アプリでスポーツを「する」「みる」「ささえる」を促進
- ・R7.9月末時点で30,054万人が登録

○アーバンスポーツイベントの開催

- ・BMXやスケートボード、ボルダー等の体験やデモンストレーションの啓発イベントを実施
- ・5月に七尾市、9月に金沢市で開催し、あわせて約9,000人が来場



○生涯スポーツ等の普及支援

国スポ公開競技やその他競技団体等に対する競技普及活動等への支援

○その他

スポーツ施設の利便性向上(いしかわ総合スポーツセンターの電子会員システム導入、JOCと連携したオリパラレガシーの継承 など)

今後の方針

様々な施策の展開により、より多くの県民がスポーツに触れる機会を確保する。また、トップスポーツチームの応援機運のさらなる醸成を図り、スポーツを活用した地域活性化を進める。

Ⅲ パラスポーツの振興

現状と課題

- ・県障害者スポーツ大会参加者数は近年伸び悩んでいる
- ・「障害がありスポーツが苦手」、「障害に適したスポーツがわからない」という声が聞かれる



パラスポーツを始める障壁を取り除くとともに、パラスポーツの理解促進とさらなる普及を進める必要がある

<関連データ>

区 分	R1	R4	R5	R6	R7
障害者スポーツ大会参加者数	1,107	605	693	588	727

R7年度取組

○県障害者スポーツ大会



ボウリング、フライングディスクは金沢に加えて能登会場を追加
R7.5.17～6.1
西部緑地公園陸上競技場ほか

○パラスポーツフォーラム

県内商業施設でボッチャや車いすバスケ等の体験会を実施

○県内トップスポーツチームと連携したパラスポーツ教室

県内の特別支援学校等 7 校で開催

○パラアスリートの強化

全国大会等に出場する際の交通費や宿泊費、用具等の運搬費を支援

○障害等に応じたスポーツ発見のための測定会

小学 1 年生以上の障害のある方を対象に、スポーツ能力測定会と体験会を一体的に開催



新 デフリンピックの機運醸成

ツエーゲン金沢のホームゲームで東京2025デフリンピック機運醸成イベントを開催

内容：ピッチでの本県出身出場者(高桑明紀氏)の紹介、手話体験、デフサッカー体験、ビームライフル体験等



今後の方針

障害のある方に、よりスポーツに親しんでいただくため、パラスポーツのさらなる普及の促進を図るとともに、パラアスリートの競技力のさらなる向上を目指す。

Ⅳ 能登駅伝の復活

スポーツの力で前に進もうとする能登の皆様の背中を押すような、
全国から人が集うスポーツイベントを開催し、**能登の創造的復興を目指す**

能登駅伝の復活

(S43年～52年に開催、高岡～珠洲～輪島～金沢の約350kmを3日間で走る)

新たな
能登駅伝が
目指す姿

能登の素晴らしさを国内外に発信し、
県内外の学生に復興の過程を知ってもらい、
学生と被災地の皆さんが交流する機会を創出し、
記録より記憶に残る大会 を目指す



○昭和43年～52年に開催され、当時「箱根駅伝」や「伊勢駅伝」とともに、**学生三大駅伝**の一つとされた。

○現在、数年後の開催に向けて、陸上競技関係者や地元自治体からなるワーキンググループを開催し、意見交換しながら、**基本計画案の策定を進めている**